

『ピーマン』 作：ポチ子

今年もどこかの番組で、

子供が嫌いな食べ物ランキングが発表されていた。

発表されなくたって分かる。

一位は大体あいつだ。

緑色で、苦い、子供の天敵、ピーマン。

私は、小さいころからピーマンが好きだった。

苦いとも、まずいとも感じなかった。

運動会の際には、

ミニトマトやブロッコリー、

色彩担当の野菜がすべて嫌いだった私のために、

母が色合いでピーマンの炒め物を入れていた。

今思い返してみても、

炒められたピーマンの色は茶色だったし、

絶対その役目を果たしてなかったけど。

でも、私はお弁当のピーマンが大好きだった。

周りの皆は、

ピーマンが好きだなんておかしいと、

ピーマンの味を思い出したのか、顔を顰めながら言った、

あんなに美味しいのに。

ピーマンの肉詰めは絶品だし、

チンジャオロースはピーマンが入ってないと話にならないじゃんか。

私は、心の中で文句を言っていた。

でも、大人になると、

ピーマンが嫌いな人も減って、

自分も大人になったなど言いながら、

普通に食べる。

そして次第に、ピーマン嫌いの子供のために、

ピーマンをそれはそれは細かくみじん切りにして、

味の濃い料理の中に入れるのだ。

ピーマン入りのハンバーグを食べている子供に、

「美味しい？」

なんて聞いて。

それに、

「美味しい！」

と答える子供をみて、

してやったりと笑うのだ。

嫌われ者のピーマンは、

他の野菜なんかよりも、

たくさんのストーリーの中にいて、

『ピーマン』 作：ポチ子

今日も、誰かの笑顔を作っている。

・  
・  
・  
たぶん。

— 終わり —